

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2015年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2015（v.1.0）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都市山科区竹鼻立原町集合住宅計画	階数	地上7F
建設地	京都市山科区竹鼻立原町1番地3他	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	308 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年7月25日
敷地面積	2,969 m <sup>2</sup>	作成者	IAO竹田設計 若江隆寛
建築面積	1,532 m <sup>2</sup>	確認日	2017年7月31日
延床面積	6,635 m <sup>2</sup>	確認者	IAO竹田設計 若江隆寛



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算 ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
観配慮(外観+緑化)、省エネルギー化、シックハウス対策に対応した周辺環境に配慮した京都市の景観形成に相応しい街づくり。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
VOCの排除、ノンホルムアルデヒド(F4☆)の材料選定を行う。また、脱塩ビ(オレフィン採用)居室の24h換気設備による住環境の安全性に配慮する。	多くの管理実績のある管理会社に建物運営管理を委託する。防犯面ではオートロックシステム等によるセキュリティー設備を施し、安心で安全な環境を提案する。	袋状道路の先に見える計画建物を奥ゆかしさのある京都町屋の趣を感じさせるように計画するとともに、京都町屋に伝統的に用いられている縦格子を各所にあしらった織細でモダンな装いとすして景観形成を図る。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外壁に面する部分とその周辺には断熱材を施すと共に、採光及び通風が十分に確保できる開口部を設置する。	外壁には自然素材を原材料とするタイルを使用する。住戸内間仕切壁の構造材には工場加工された木材を使用する。	周辺環境との調和を意識し、今後の街の活性化をイメージしつつ、先進的なモダンデザインを核とする。北側の道路側から見える景観に配慮して、センスの良いファザードを形成すると共に、沿道と敷地内の植栽計画を豊かにして街に潤いを与える。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される